

1 評価の実施期日・場所 令和8年2月24日（火） 本校さくら校舎

2 学校関係者評価委員

委員氏名	学校評議員との兼務	当日の出欠
上田 徳彦	有	欠席（後日、ご意見等をいただいた。）
井村 弘子	有	出席
富工 由貴	有	出席
山下 優	無（PTA 会長）	出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

- ・ 医療的ケアについては、長崎特支の看護職員は県内でも高い評価を得ている。今後も医療的ケアを必要とする子供は増えるので、そのノウハウをセンター的役割として、地域の学校への支援に役立ててほしい。
- ・ 働き方改革では、IT化でリモート会議などオンラインの活用も進んでいるが対面で話すことの良さもあるので、バランスよく進めてほしい。課題となっている時間の有効活用についてもさらに工夫して進めてほしい。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- ・ ICTに関しては、これからはさらに必須となり、教員も児童生徒もお互いに学びが必要となる。一人一人の児童生徒にどのような機器が合っているのか、必要となるのかなど、デモ機などを活用して見極めていてもらいたい。教員のスキルを高め、見通しをもった活用、そして家庭でも使えるようにしてもらいたい。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- ・ 校外学習や鶴洋高校とのオンライン水族館、長崎女子短大での調理実習など様々な体験学習は子供たちにとって重要な学びである。これからも継続することが必要と思われる。
- ・ 肢体不自由の子供達が修学旅行で公共交通機関を利用することは大変なこともあるだろうが、児童生徒の学びだけでなく、世間の方々に知ってもらい、環境を整えることにもつながっていく。

(4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みについて

- ・ 学校行事や学校見学で来校した際に、子供たちが一生懸命に発表していたり、教室の掲示や教材が工夫されていたりと良い指導をされている。
- ・ 学校教育の全ては、子供たちの健やかな成長と、社会に貢献できる人材の育成だと思われる。先生方の継続した指導を願う。